

験号 受番		氏名	
----------	--	----	--

一 次の文章を読み、後の問に答えよ。

私たちの心を^ア調べてみると、他者と一緒にいたい、甘えたいという他者に接近する傾向と、他者には^カカシヨウしてほしくない、自分は自分でいたいという他者を回避する傾向という、同時には両立し難い、相反する要求を持っていることに気づくであろう。人は他者が必要であるのだが、時に、他者が^クウトましくなるという^Aな感情を持つのである。これが、人間関係を重要だと認めながらも、複雑で^ク回介なものにしてしまう。したがって、人間関係に悩みを持つ人が多くなる。実際、心理相談に訪れる人の多くの主訴は人間関係の悩みである。この相反する要求をどのように調整するかが問題なのである。だが、これはけつして難しいことではない。人間はこの調整がうまくできるように、数百万年もかけて進化してきたからである。

「喜びは人に分かつと二倍になる、悲しみは人に分かつと半分になる」

これはドイツの詩人の言葉であるという。このフレーズがよく引用されるのは、人間にとっての他者の存在の価値をうまく表現しているからであろう。なぜ、人は人を必要とするのであろうか。この人間への接近傾向、一緒にいたい、親しくしたい、さらには、助けてほしいという要求は、身体的には非力な人間という生物が、生き延びるために進化させてきたものだという説が有力である。つまり、これには人類に欠かせない^B的基盤、あるいは、神経学的基盤があるというのである。したがって、人間には誰でも他者とつながる能力が^クソナわつていて考えられる。

他者と結びつくという生物学的基盤として注目されるのは、人類の先祖が社会生活をしてきたために進化させたのではないかとされる大きな脳（特に大脳の新皮質）を持つことである。人類は六〇〇万年前にアフリカで森林生活をやめてサバンナに出て暮らし始めたという。それがなぜかという理由はわからないようであるが、^C、人類はサバンナで木の実や果実を採り、植物の根を掘り、狩猟をして生活していたと考えられている。身を^クカクすものが少ないサバンナで野生動物の^ク餌食にならずに生きていくために、個体（つまり、^クイテンシ）が生き延びるために、人類は集まって住み、互いに協力して食物を集め、^クエモノを分け合い、子どもを育てるなどの社会生活を営むように進化してきたとされている。社会生活では集団内や他の集団との間で競争や戦いが起こることも想像できるが、それは餓えや死を意味するであろうから、競争や戦いの治め方、分配、役割分担などの複雑な社会的ルールも作ったにちがいない。この点は、現在も狩猟・採集生活をしている人々を調べて確かめられている。^D、まだ何も学習を始めていない乳幼児が、大人が教えなくても、互いに協調したり、困っている人を助けようとしたりするのも、進化の結果そのような能力を持って生まれてくるからだと言われている。

二〇〇万年くらい前には、人類（ホモ・ハビリス）がすでに複雑な社会生活を営んでいたことが遺跡や化石によつてわかるという。そして注目されるのは、ホモ・ハビリスあたりから、人類の脳の容量が増え始めたことである。その後も脳は大きくなり続ける。この複雑な社会行動をするために特別に脳が進化したとするのが「社会脳仮説」である。社会脳の部位としてもつとも注目されてきたのは人類の脳全体に占める大脳新皮質（大脳の表面を占める皮質構造のうち進化的に新しい部分）の大きさである。しかし、さまざまな社会的行動を処理する脳を考えれば、視覚、聴覚、注意、記憶、さらには、運動の^クセイギヨなどもかかわるので、脳全体が「社会的な環境でうまくやり、生き残ることに特化したメカニズムを持つ」ともいえる。

^E、人間にとって他者との関係にはもうひとつの側面がある。私にかまわないでほしい、ひとりになりたい、私は私でありたいと願う傾向である。そして、この他者と距離を置き他者を避ける傾向にも、生物学的基盤、神経学的基盤があると考えられている。^F、この他者を避ける傾向も、人間は持つて生まれているというわけである。それは、まず、環境から独立した固有の身体を持つこと、前述のように社会生活をしてきたこと、加えて、他の生物にはない高度な知的能力を発揮する脳を持つことである。

人は自分について知る能力を持つて生まれてくる。生得的な視覚、聴覚などの多様な感覚器官を使つて自分のまわりを知ることができる。ストレスが生じると顔面の皮膚温度が下がるという現象を遠赤外線装置で調べた研究によると、生後二カ月頃の乳児でもそばにいた養育者が離れていくと、それを察知したようにストレス反応を示したという。この頃には自分の身体が養育者から分離していることがわかり始めているという証拠だといえよう。

乳児に鏡に映った自分の姿を見せると、0歳児では自分の鏡像をまじまじと見るが、それが自分だとわかっているという様子ではない。一歳を過ぎる頃ようやく鏡に映った自分を見て恥ずかしそうにする。さらに、気づかれないうちに子どもの鼻に付けられた赤い印を鏡で見ると、あわてて（鏡の中の赤い印ではなく）自分の鼻を拭こうとするのは二歳近くになってからだという報告もある。これは、^Gと解釈される。写真の中に自分を見つけたら、以前撮つたビデオ映像の中の自分を見つけて喜んだりするのも、そして、「〇〇ちゃんはどこ？」と尋ねられて、自分を指さすようになるのも、一歳近くになってからである。この頃になると、自分に固有の身体があることがわかるらしい。身体はいわば自分が存在する場所であり、生涯にわたつてこれが自分の身体であるという確信が、精神的健康を保つ上で重要である。精神疾患の中には、この身体像についての不安を訴える症状が見られることから、^クそれがわかる。

自分の身体の発見は社会生活をしていくことでいつそう確かになる。つまり、周りの人々とのやり取りによつて自分の存在に気づくからである。たとえば、乳児が空腹だと泣いて訴えて授乳されることが繰り返されると、やがて、「^H」と「^I」とがあることに気づき、それで自分の存在を感じるようになるのだと説明される。このような、他者からのフィードバックによつて自分を知るという経験は、大人でもあるだろう。さまざまな他者とのつきあいの中で新たな自分に気づいたり、新しい自分が開発されたりもするはずである。つまり、他人の存在が自分を認識するように働くのである。

（高橋恵子『絆の構造―依存と自立の心理学』講談社現代新書（二〇一三年）より）

問一 ― 線部 a、i のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 ^A にふさわしいものを次の中から選び、記号で答えよ。

イ アンダーグラウンド ロ アンバランス ハ アンビバレント ニ アンチウイルス ホ アンフェア

問三 **B** にふさわしいものを次の中から選び、記号で答えよ。

イ 科学 ロ 人類学 ハ 歴史学 ニ 物理学 ホ 生物学

問四 **C** と **F** のそれぞれにふさわしいものを次の中から選び、記号で答えよ。

イ また ロ ともかく ハ ところが ニ たとえば ホ つまり

問五 **G** にふさわしいものを次の中から選び、記号で答えよ。

イ 鏡の前にいる自分の身体が確認できたからだ
 ロ 鏡の前にいる自分の身体を恥じているからだ
 ハ 鏡の前にいる自分の身体に喜びを感じているからだ
 ニ 鏡の前にいる自分の身体にストレスを感じるからだ
 ホ 鏡の前にいる自分の身体について自覚できないからだ

問六 傍線部①「それ」が指し示す内容を、本文中から四十五字以内で抜き出し、その最初と最後の四文字を記せ（句読点は含まない）。

問七 **H** と **I** にふさわしいものを次の中から選び、それぞれ記号で答えよ。

イ 満腹である内部 ロ 空腹である外部 ハ 授乳してくれる外部 ニ 授乳されている外部 ホ 泣いて訴える内部
 ケ 満腹である自分 ト 空腹である自分 チ 存在に気づいた自分 リ 空腹でない内部

二 次の文章を読み、後の問に答えよ。

「ただ目の前に並べられた仕事を手際よくこなしてく」。

人気グループ、ミスター・チルドレン (Mr.Children) の『彩り』という曲の歌い出しだ。

自動車組立工場の夜勤で、朝まで単純作業を続ける従業員。やるせなさを感じながらも、小さなやりがいを持って働く姿を明るい曲調で描写した。高校の「倫理」の資料集(教科書の副教材)で青年の生き方を考える章に紹介されたこともある。

歌の続きはこんな内容だ。

自分の単純作業ででき上った物が、どこかで誰かの幸せに役立っているかもしれない。そんな些細ささいなことをやりがいにして、モノクロのような毎日を彩ろう。

作詞作曲した桜井和寿さん(ボーカル)は曲を作るきっかけについて、かつて語ったことがある。

一緒にサーフィンに行った友人が夕方、一足先に帰るという。工場の夜勤のためだった。まとまった休みも取りにくいのに、それでも淡々と働いている。

そんな友人の姿に「自動車を組み立てる作業だつて、まわり回って大事な仕事だよ」一ふと思いついたメッセージを込めた。

桜井さんは、はやりの言葉でいえば、言動が社会的に大きな影響力を持つインフルエンサー。いわば成功した人だ。そうした人間が、必ずしもそうではない人たちの思いをすくい取り、代弁したことが共感を呼んだ。

見方を変えれば、この国の経営者や権力を持つ人たちのどれほどが、真面目に働く人たちのやりがいや尊厳に心を砕いてきたか。

ひたすら安い労働力の置き換えに没頭し、派遣労働やフリーランスの業務請負、外国人実習生らを拡大させようとしてはいないか。

誰かの役に立つことは仕事のやりがいであり、生きがいになる。人間にとって幸せを追い求める本能的行為といわれる。

それは障害者も同じ。中央省庁などで発覚した障害者雇用の水増しは、障害者の幸せを得る機会を奪ったという点で罪深い。

対照的に、障害者雇用に積極的に取り組む中小企業を紹介した記事がある。中日本高速道路から広報研修で中日新聞記者を経験する中村玲菜さんがまとめたものだ(同紙10月4日付地域経済面)。

愛知県豊明市のリサイクル業「中西」では、知的障害の従業員がベルトコンベヤーの前でガラス瓶など資源ごみを仕分ける。

〈「真面目にこつこつ」が求められる作業には向いている。集中を切らさず、反復作業に当たってもらえる〉

健常者の集中力が続かない作業も黙々とこなす。適材適所で活躍できるということだ。

もちろん成功ばかりではない。

〈(別の企業で)金曜には完璧にできた作業が、月曜になると手順が分からなくなることも〉

サポートは根気がいるが、職場に一体感が生まれるメリットもあると、記事はつつつている。

ではなぜ障害者雇用に率先する立場の中央省庁は誤ったか。「雇ったことにできるなら、ごまかしてもいいか」といったものだったろう。ある省庁で「任せられる仕事が少ない」との声を聞いた。そのままでは任せられない仕事なら段取りや仕組みを工夫する―そういう発想もなかった。

政府が働き方改革で強調するのは、生産性向上という尺度だ。教えるのに時間がかかる障害者雇用と相いれないし、手間暇かけていい物をこしらえる日本のモノづくりの伝統とも親和しない概念だ。

京都に一澤信三郎帆布という根強い人気を誇る老舗かばん店がある。一点一点職人が手作りし、修理を受け、長く使い続けるかばんを提供する。京都の店でしか売らない。「目の届く範囲、責任を取れる形で売る」からだ。

そんな店の姿勢を在京テレビ局の人気番組が五月に放送した。爆発的に客足が増え、かばんは瞬く間に品薄に陥った。注文は受け付けるが入荷まで二

カ月待ちだ。

もうけを考えれば、七十人いる職人に残業を求め、人数を増やすだろう。だが、そうはしない。

一澤信三郎社長は平然として言う。「世間は利益率やら投資効果、利便性のことばかり。だが暮らした何十年と役立つものは、そんなものからは生まれません。だから、とことん時代に遅れ続けような、って言うてんです」

職人の生活を守り、品質を守り、いいものを作り続ける。それが使う人の役に立つ。

働くとはつまり、人をつなぎ、人を守るものではないだろうか。

(「誰かの役に立つ喜び」『東京新聞』二〇一八年十一月二十三日社説より)

問 次の a ～ j それぞれについて、この文章の内容と一致しているものには○、一致していないものには×をつけよ。

- a 桜井和寿さんの『彩り』の歌詞には、単調で創造性が乏しい労働に対する憐れみが表れていたため、多くの人の共感を呼んだ。
- b 桜井和寿さんの『彩り』の歌詞には、単調で創造性が乏しい労働に対する励ましが表れていたため、多くの人の共感を呼んだ。
- c この国の経営者や権力者は、まじめに働く派遣労働者や外国人実習生たちのやりがいや尊厳に心を砕いてきた。
- d 幸せを追い求める本能的行為である仕事の機会を障害者から奪った中央省庁の不祥事は、決して許されるべきではない。
- e リサイクル業の仕分けの作業は、知的障害者に向いており、労働効率の面でもすぐれている。
- f 障害者雇用に対する中央省庁の意識は、「雇ったことにできるなら、ごまかしてよいというものではない」というものだった。
- g 政府が働き方改革で強調している生産性向上という尺度は、日本のモノづくりの伝統とは矛盾しないものだ。
- h 政府が働き方改革で強調している生産性向上という尺度は、日本のモノづくりの伝統とはなじまないものだ。
- i 一澤信三郎社長は、人々が長く使い続ける製品を作り続けるためには、時代遅れの働き方を続ける必要があると考えている。
- j 一澤信三郎社長は、人々が長く使い続ける製品を売り続けるためには、時代遅れの姿勢を宣伝する必要があると考えている。